「しま」は長崎県の宝!!

シリーズ３～壱岐市～

長崎県は、全国で最も多くの「しま」を有する県です。それぞれの「しま」には、その土地にしかない、美しい自然、豊かな歴史、そして温かい人々の営みがあります。長崎県の宝である「しま」のことを知り、思いを馳せることを県民の一人として大切にし、「しま」とのつながりも含めて、私たちの長崎県があることを誇りにしたいものです。

シリーズ３は壱岐市にスポットを当てました。壱岐は、美しい海や海岸、なだらかな丘陵や平地など特徴的な自然が広がっています。また、中国の史書「『魏志』倭人伝」には「一支国」として紹介され、我が国の「古事記」には、５番目に生まれた島とされています。

豊かな自然、古代から続く歴史や伝統など、壱岐は様々な魅力があふれる島です。

＜壱岐市の位置＞

【壱岐の豊かな自然と歴史】

＜文永の役新城古戦場＞

谷江川近くに石碑があります。この一帯は激戦地であったとみられ、一角に千人塚があります。千人塚は多くの戦死者を埋葬したことからそう呼ばれています。近くには平景隆（たいらのかげたか）の居城日詰（ひのつめ）城がありました。千人塚の中央に元寇殉国忠魂塔が建ち、左脇には観音像、右脇に本来の千人塚の標石である自然石が２基あります。

＜小島神社＞

小島神社のある島は、島全体が小枝すら持ち帰ることが許されない神域とされています。

干潮時は海が割れて参道が現れ、満潮時は参道が海に沈み島になります。

このほか、島内には神社庁登録だけでも 150 を超える数の神社があり、神社の数の多さから「神々が宿る島」とも言われています。

＜双六古墳（国指定史跡）＞

長崎県最大の前方後円墳で、前方部と後円部の盛土はかなり急傾斜になっているのが特徴です。石室は前室と玄室の二室構造で、前室側壁には、ゴンドラ形の船の線刻画が描かれています。

＜原の辻遺跡（国特別史跡）＞

紀元前２～３世紀から紀元３～４世紀にかけて形成された大規模な多重環濠集落で、芦辺町と石田町にまたがる台地に、東西約 400m、南北約 800mの舌状に広がっています。平成７年、原の辻遺跡は「『魏志』倭人伝」の中の「一支国」の王都と特定されました。

＜筒城浜海水浴場＞

日本の「快水浴場百選」に選ばれた壱岐随一のビーチです。白くてきめの細かい砂浜は約 600m続き、波も穏やかなため、夏にはたくさんの海水浴客で賑わいます。

（写真提供:壱岐市観光連盟）

【受け継がれる伝統と技】

壱岐神楽（国指定重要無形民俗文化財）

壱岐神楽は 700 年の伝統と歴史をもつ神事芸能です。他の地方に見られる神楽組や神楽師等が行う神楽とは違って、神楽の舞や曲を奏でる演者はすべて神職が行います。このことから、とても神聖視され、信仰されている貴重な文化財です。昭和 62 年１月に国の重要無形民俗文化財の指定を受けました。

神楽の起源は南北朝の頃だといわれています。壱岐市芦辺町箱崎八幡神社の社家に伝わる古文書の中に、永享七年十一月に神楽舞人数のことを記したものがあり、室町時代の初期にはすでに行われていたことを知ることができます。

（写真提供:壱岐市観光連盟）

壱岐焼酎

壱岐は麦焼酎発祥の地といわれています。平成７年７月にはその伝統と製法が認められ、ＷＴＯ（世界貿易機関）の「地理的表示」が認められました。世界から認められた産地指定酒となった壱岐焼酎は、島内七つの蔵元によりその伝統と製法が守り続けられています。

壱岐焼酎の歴史は 16 世紀までさかのぼります。江戸時代には、壱岐は平戸藩に属していました。藩は肥沃な土地に着目し、甘藷より高価な米、麦を年貢物として奨励しました。壱岐焼酎は、この豊富な麦を原料として約 400 年前頃より造られ、製法が急速に普及しました。明治 33 年の記録によると、島内に 38 軒の焼酎の蔵元がありました。加えて清酒を造っていた蔵元も焼酎を兼業していました。このようなことから、壱岐の島が「麦焼酎の本場」、「麦焼酎のふるさとの島」と言われているのです。

壱岐焼酎の酒蔵

甕に入れて熟成させている壱岐焼酎
甕のほかにもタンクや樫樽などに入れて熟成させます

壱岐焼酎

（提供:壱岐焼酎委員会）